

運動やスポーツを「する」ことが好きになるために
 ～「伝える力」の育成を柱とした授業改善～
 東広島市立八本松中学校

全児童生徒数	456名 (男子240名 女子216名)
全クラス数	16クラス(特別支援級3クラス)
TEL	(082) 428-0202

1 課題と目的

生徒意識調査において、本校第3学年のおよそ2割の生徒が運動やスポーツ全般に対して否定的に捉えていることが分かった。また、それらの生徒は、技能習得への苦手意識から運動やスポーツの4つの関わり方「する・見る・支える・知る」の中の「する」ことに対して特に否定的であることが分かった。一方、上述の意識調査において、およそ7割の生徒は、「他者に伝える」活動を肯定的に捉えていることが分かった。

そこで、今年度は、「他者に伝える」活動を意図的に取り入れた授業改善を行うことで、生徒の「する」ことに対する否定的な捉えを解消することを目的とした研究を行うこととした。

2 主な取組の内容

(1) 異学年学習

ダンスの単元において、異学年の生徒と現状や課題、練習方法等を伝え合いながら、楽しくダンスの技能を習得させる。

(2) グループ全員で取り組む課題解決学習

球技「卓球」の単元において、教師から提示された難易度の異なる課題を、グループのメンバー全員が教え合い（伝え合い）ながら、解決していく活動を取り入れる。

(3) 八本松中学校体育教室

生徒が教師役となり、地域の高齢者や小学生、保育園児等に運動プログラムを楽しく教える（伝える）ことで、生徒自身が運動を「する」ことに対する否

定的な捉えの解消を図る。

3 取組で工夫したところ

(1) 意見交換や情報共有を容易に行うために異学年の生徒も所属、閲覧、書き込みのできる Google Classroom を活用した。また、異学年と合同授業を実施し、言葉や動きで直接「伝える」場を意図的に仕組むなどの工夫を行った。

(2) 「教え合い」（伝え合い）が容易にできるよう課題をスモールステップで設定した。また、技能差のある生徒でグループを編成することで、教える、伝えるなどの関わりが増え「できた」喜びを感じやすくなるよう工夫を行った。

(3) 「伝える」（内容や伝え方）ことを意識するために、運動プログラムを考える対象を高齢者、小学生、幼児とし、相手の年齢や体力、技能差などを考慮して考えることができるように工夫を行った。

4 成果と今後の課題

本校第3学年の多くの生徒が肯定的に捉えている「他者に伝える」活動を意図的に取り入れた授業を行うことで、生徒の「する」ことに対する否定的な捉えを一定程度解消できたことが事後に行った生徒の振り返りから明らかになった。具体的には運動やスポーツ全般を否定的に捉えていた生徒が、約2割から1割に減った。今年度は対象を第3学年に絞って研究を進めたため、1、2学年の生徒を対象とした授業改善が今後の課題である。



3年生から下級生に向けての情報共有や下級生からの質問に答える時も Google Classroom を活用した。



教え合い学習ではビブスの色で課題の達成状況が把握でき、取り組んでいる課題も一目で分かるようにした。



伝える相手の年齢、体力、運動能力を考慮し考えた運動メニューを実践してもらった。また、中学生が運動のサポートを行った。